## 医療保険の原点

日本年金機構 副理事長 (元厚生労働事務次官)

樽 見 英 樹

## 持ちは最終回となる。私自身の最近の経験 とにかく、看護師の皆さんの仕事には本当 るが、それはまた他の機会に譲るとして、 た。ほんの数日ではあるし検査のための入 ついて改めて考えてみたいと思う。 も踏まえながら、医療保険の機能と役割に なことを嫌がらずにやってくれるという。 に感心した。 こととか、勉強になったことはいろいろあ 員としてあちこち病院を見て回ったことが てみて感じたプライバシーのなさのことと 院のようなもので、基本ピンピンしている とを書かせていただいた。今回で私の受け せっかくの機会だからと四人部屋に入っ 最近、初めて入院というものを経験 病院食を改善しようというチームの一 病院食がずいぶん良くなったこととか 何事も経験だなあとしみじみ思った。 20代の頃、私は保険局に勤務してい 何かを語る資格もないようなものだ 病院は朝の活動が始まるのが早い 時には家族にもできないよう

と、医師や薬剤師との情報の共有と連携がと、医師や薬剤師との情報の共有と連携がといえば当たり前のそうしたことが、どれほど患者の安心感につながるかということも、今回の数日からだけでも実感したことが、

これまで1年間にわたり、さまざまなこ

患者の安心につながる

医療スタッフの安心が

を役割なのではないかということである。 る医師、看護師、薬剤師はじめ各スタッフ る医師、看護師、薬剤師はじめ各スタッフ の皆さんが、安心してそれぞれの職能を発 すことがとても大切なことであり、それも うことがとても大切なことであり、それも

## 医療保険は、もちろん、患者が医療を受医療提供体制の充実を図る

医療保険は、もちろん、患者が医療を受けやすくするための社会的なしくみなのだが、しかし考えてみるとこのしくみには不思議な特色がある。保険であるからお金を集めて配分するというものである一方、その本当の目的は安心できる良い医療の提供であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相であり、医療というものが生身の人間を相びあり、

## PROFILE



樽見 英樹 たるみ ひでき

生年月日 1959年11月21日 日本年金機構 副理事長 元厚生労働事務次官

学 歷/1983年3月 東京大学法学部卒業

職 /1983年4月 厚生省入省

> 1993年5月 在米国日本国大使館一等書記官

1998年4月 北海道保健福祉部高齢者保健福祉課長

2004年7月 総務省行政管理局管理官

2008年7月 社会保険庁総務部総務課長 2012年9月 厚生労働省大臣官房人事課長

厚生労働省大臣官房年金管理審議官 2013年7月

2016年6月 厚生労働省大臣官房長

2018年7月 厚生労働省保険局長

2019年7月 厚生労働省医薬·生活衛生局長

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長 2020年3月

2020年9月 厚生労働事務次官 2021年10月 厚生労働省退官

上を

の努力なのだと私は思う。

価値を超える意義を社会にもたらすため

は常に多いが、

それはどれも、

単なるお金

医療保険を運営する者の取り組むべき課題

率化と重点化を図っていったら良い

0

の制約は常に存在し、そのなかでどう効

きた成果の上に、現代の医療ニーズを踏ま ていくべきか、これまで先人が積み上げて めたお金の意義や使い方をどのように考え

えて付け加えるべきことは何か、

方で負

日本年金機構 副理事長 2022年1月

図っていくかということも、 らない。 者がそうした責任を負っているからに他な 保険者が な仕事であることを、忘れてはならないと やって効率性とともに医療の質の向 責任を負っているということ、つまりどう を集めるだけではなく、 ような医療を提供するかについても一定の 言うまでもないことだが、 一方の席を占めているのも、 それによってどの 保険者の大切

ないのである。 こうした一種の矛盾は、

つには、

医 療

保険者は何ができるのか、

保険料として集

をもたらす、 受けやすくなるということ自体から、 造になっている。 保険があることによって多くの者が医療を 患者の参加が医療そのものの健全な発展 かしそれに加えて、 という形で解消されていく構 医療保険者はお金 多く

良い医療・良い生活を

保障するため、 今後もたゆまぬ努力を

は、 員の健康な生活の保障である。 医療保険、 良 い医療の保障であり、 とりわけ公的医療保険の原点 ひ そのために いては加入

> 上げて筆を置くこととしたい。 業が引き続き発展し、 とに感謝するとともに、 ばかりだが、これまでお読みくださったこ ただいた一方、 の安心感につながるよう、 てなかったのではないかと申し訳なく思う この一年、私としては楽しく書かせて あまり皆様方のお役には立 住民の医療と健康 皆様方の国保の事 切にお祈り申

中医協で

保険

記事提供 社会保険出版社

13 あおもりの国保 2023.4 第408号